

一般演題ポスター | 症例・施設

症例・施設

Fri. Jun 22, 2018 9:50 AM - 4:50 PM ポスター会場 (7F イベントホール)

ポスター貼付 : 9:20~9:50

ポスター展示 : 9:50~16:50

ポスター討論 奇数(軽食) : 12:10~12:50

[P一般-104]退院直後の歯科衛生士による指導の重要性について

○早川 里奈¹、庄島 慶一²、岩田 美由紀²、氷室 秀高¹ (1. 医療法人社団秀和会小倉南歯科医院、2. 医療法人社団秀和会小倉北歯科医院)

【緒言】

繰り返し起こる誤嚥性肺炎は、患者のADLを低下させ、生命予後を不良とする。我々歯科衛生士は、口腔ケアの立場からこれに介入する事が多い。今回私たちは、訪問先としての病院と住宅型有料老人ホームの両方で、シームレスな管理を行った1例について報告する。

【症例】

88歳男性。右肺炎にて入院中。脳梗塞後遺症。水分でむせが認められるとの事で、NSTへ歯科衛生士として参加。その後、訪問診療。口腔の保清と食事介助について指導した。退院時カンファレンスに参加し、注意点を伝言した。退院3週間後、『食事に時間がかかり、飲み込まず出してしまう』と施設職員の求めにより訪問。ADLは著しく低下し、ほぼベット上での生活、意識レベルも2桁で傾眠傾向。緊急搬送で再入院となった。VF結果から、食形態をミキサー食へ変更。また、前回の入院と同じ注意点に加えて摂食時の頸部前屈、喉頭挙上訓練と全身的な筋力の向上をお願いした。約1週間で肺炎症状は消失。食事も全量摂取できるようになり退院した。退院後は、他施設に入所する事となり、再度、退院時カンファレンスが行われた。前回の伝言のみでは実行されないという反省を踏まえて、退院翌日に、体温表(喫食量を含む)などの記録方法をNSと打ち合わせ、次に食事介助方法。お口の体操、義歯及び口腔内の保清方法を介護者へ直接指導した。また、指導の評価と喉頭挙上訓練を歯科衛生士が週に1回、2ヵ月間継続した。現在まで、発熱は見られず体重はわずかに増加し、意識レベルが1桁となっている。

【考察】

肺炎を繰り返すケースで、退院時カンファレンスでの文書による指導のみでは、介護現場での実践は難しく、直接指導が必要であることを再認識した。